

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201390		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名	グループホームなごみ ユニット1		
所在地	和歌山県岩出市水栖644-1		
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果市町村受理日	平成25年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3071201390-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3071201390-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年2月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の人が、その人らしく安心して暮らせる支援を基本に、職員全員で取り組んでいます。重度化された方のケアもご家族と共に、出来る限りホームで過ごせるよう支援しています。中庭のウッドデッキには、季節の花々を植えたり日向ぼっこをしたり、又、バーベキューや夏祭りの出店など季節感を楽しんで頂いています。お弁当やおやつを持ってドライブにも出かけています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、地域に根ざした事業を展開する法人の事業所の一つで、住宅地の中にあります。理念に基づき、利用者がいかに日々生き生きと自分らしく暮らせるかを考え、利用者の気持ちに寄り添ってケアを実践しており、介護計画を作成する際に、利用者の思いに気付けるよう取り組み、職員は情報を共有しています。また、一緒に自家菜園や梅ジャム作りをしたり、中庭のデッキで季節の花を植えたり、クリスマスツリーの電飾を飾ったり四季折々の楽しみごとの中から利用者の意欲につながる様子を支援しています。運営推進会議に市から2名の出席が毎回あり良好な関係が保たれ、参加者共ホームの実情を知る機会となっています。その方の希望に添った個別の外出支援を始め、職員は常に利用者本位にケアに取り組んでいるホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で安心して暮らせる支援を理念にし、スタッフ全員が目につく場所に掲示し、会議毎に全員で唱和し、理念を意識しケアに繋げている。	「利用者が毎日の生活の中で喜び、楽しみを持って生き生きとした生活を過ごせる」という理念のもと、利用者の出来ることをしてもらいながら生き生きとした場面が見られるようなケアに努めています。ホールや職員トイレにも理念を掲示し、月1回のミーティングで全職員で唱和し理念が活かされているか振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の側溝清掃への参加や中学校生徒の体験学習の受入等、地域の方々との交流に努めている。	自治会に加入し、地域の情報は区長にから聞いています。秋祭りに子供神輿を見に行ったり、近隣の散歩時に挨拶を交わしています。中学生が体験学習でホームを訪れたり、地域の溝掃除に参加し地域との交流を図れるように努めています。地域の防災訓練時に声をかけてもらえるようになり、徐々に交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、認知症の人の理解や支援方法を話し合い情報交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動やご利用者へのサービス報告を行い、参加者の助言や意見を受けて話し合いサービスの向上に努めている。	会議は2カ月に1回、2名の市職員や民生委員、自治会、家族等の参加のもと開催しています。ホームの現状や職員の研修報告を行い、災害訓練についてなど、参加者と活発な意見交換がなされています。懸案事項の結果報告や検討課題など次回の会議につなげ、会議が意義あるよう工夫しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回、出席頂き事業所の実情や取り組みを理解して頂いている。機会ある毎に相談させて頂いている。	市職員が毎回運営推進会議に出席しており、実情を知ってもらっており、また、相談事等があれば市役所を訪れ、その際にもホームの現状を伝える等、良好な関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時の話し合いや研修への参加で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠も出来る限りしないように努めている。	内部研修は外部から講師を招いたり、外部研修にも参加し伝達研修を行い、身体拘束をしないケアについて職員間で周知するようにしています。新人職員には、ケアの場面の中で説明をしています。不適切なケアをしていないか自己チェックリストで振り返り、注意し合っています。玄関は施錠せず、出られる時には職員が付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止や身体拘束に関するマニュアルを作成し、自己チェックリストで周知徹底を図っている。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている方もおられ制度についても理解している。又、研修にも参加し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書をもとに医療た退去に関する事項等、事業所対応可能範囲について説明し、理解と了承を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の思いを聞き利用者本位のケアに努め、ご家族の面会時に要望等を聞くようにしている。	家族の来訪時に状況を伝えながら意見や要望を聞き、遠方の方や面会に来られない方には電話で意見を聞いています。家族会や運営推進会議を活用し意見が言いやすい雰囲気作りに努め、年末にホームの窓拭きや通院時の送迎についてなど意見が出され、出された意見や要望は検討し運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング以外にも職員の意見を聞き、日頃からコミュニケーションを図るようにしている。	職員の普段の会話や様子を見て管理者は個別に意見を聞いたり、上司との個別面談や申し送りノート、ミーティングでも意見や提案が言える機会を設けています。休憩時間や業務について意見が出され、職員間で検討し運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面接の機会を設けて向上心を持って働けるような環境作りに勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人研修に職員全員が参加出来る機会を作るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和歌山県認知症支援協会に加盟しており、研修に参加し交流を持ちサービスや質の向上に取り組んでいる。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で生活状況を把握し、ご本人の悩みや不安、要望等を十分に聴く機会を作り、安心して生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを十分に理解し、事業所が対応出来る範囲について十分話し合える時間を作り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が必要としている支援を理解し、その時まず必要なサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で一緒に調理や洗濯物を干したり畳んだり等、共に支え合い生活が出来ると関係作り、環境作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを十分に理解した上でご本人を支援していく為に、日々の暮らしの中での気付きや出来事を的確に伝え、情報を共有し密な連絡が取れるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の受診や馴染みの店へ買い物に出掛けたり、近所の方が気軽に面会して頂けるよう支援している。	利用者が以前から行っていたスーパーや、かかりつけ医の受診の際、知人と出会う場面があります。また、外食に出かける時には自宅前を通るなどの支援をしています。法事で自宅に帰ったり、家族と外食や銭湯に出かけるなど、馴染みの場所や人とのかわりが途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の相談にのったり、皆で過ごす時間や気の合う者同士、家事仕事を一緒にするなど、共に暮らせる関係作りを築いている。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され、他の施設に移られてからも時々、様子を見に行くなど、関係性を持つよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中でその人らしく過ごして頂けるよう、常に耳を傾け、ご希望に添った対応が、出来る様努めています。	利用していた事業所の担当者や家族、利用者から生活歴や趣味、暮らし方の希望などを聞き、思いや意向の把握に繋げています。入居後は日々のケアの中で得た気づきや情報を記録し、思いや意向等を記録用紙に追記しながら全職員間で情報を共有しています。困難な時は利用者の側に寄り添いながら思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを利用しご家族様や御本人にも話を聞くなどしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや行動パターンなどその人の状態を把握し、変化にいつでも対応できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の思いを聞き、ご本人様を支援していく為に日々の暮らしでの変化や出来事を的確に伝え情報共有を行い、密な連絡を取るよう努めている。	利用者や家族の思いを基に、全職員がケース会議に参加し、職員の意見を聞いて介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い、3カ月に1回見直し、家族や医師の意見も反映させています。職員は3カ月毎に受け持つ担当利用者を変え、細やかな気付きができるよう努め、全職員で関わり介護計画の見直しにつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の流れや生活状況表を作成し、食事、排泄、睡眠、一日の行動など記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状態に応じ、通院、買い物、散髪などの支援を相談しながら行っています。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政、民生委員、消防、学校などと連携を保ち、必要に応じて病院や他の事業所のケアマネージャーと連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりかかりつけ医を継続されており、ご本人やご家族の希望を伺い、定期受診や状況に応じてかかりつけ医と相談しながら受診している。	入居前のかかりつけ医を継続しており、家族や職員が受診の対応し情報を提供し、結果の報告を受け、医師との連携が図られています。定期受診や個々の状況変化による受診は職員が対応しています。急変時は協力医に24時間連絡がつき、相談や指示を仰ぎ、法人内の看護師の応援も得られる体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて法人内の看護師に相談し、又は直接診て頂き受診の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の事業所での状況をご家族と共に医療機関に情報提供している。又、職員が入院中に頻繁に見舞うようにし、ご家族や看護師又は、ソーシャルワーカーと情報交換を行い速やかに退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望を聴き、ご家族や医師と連携を図りながら事業所が出来る最善のケアや支援が出来るよう努めている。事業所での対応が困難と判断された場合、ご本人やご家族の希望により、法人の特養への転移も検討し取り組んでいる。	入居時に重度化や看取りの方針を説明し、ホームで出来る内容等を伝えながら本人や家族の思いを聞いています。重度化の状況はその都度かかりつけ医が家族に伝えていきます。重度化しても可能な限りホームで過ごせるよう、家族の希望を聞き協力しながらチームで取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等に参加し、又、法人の「ケアワークの基本」マニュアルにて応急手当や事故発生時の対応について理解している。マニュアルを整備し、夜勤時の緊急対応について周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力によりご利用者と共に避難訓練を実施し、避難経路の確認、避難誘導、消防への通報、消火器の使い方等訓練している。地域区長に相談し、訓練に参加して頂けるように声掛けしている。	年2回災害訓練を実施し、1回は消防署の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練が行われ、避難経路などの確認と訓練を徹底しています。災害時にはホームを地域の避難所として提供し、また、地域の災害訓練に参加したいと区長に伝え、地域との協力関係が築けるように取り組んでいます。	

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の状態に合わせさりげない声かけや介助でプライバシーを損なわないように支援している。	入職時に接遇についての研修の中で、プライバシーや人格の尊重について学び、全職員も振り返りながら周知しています。排泄時の声かけは周囲に気を配る事や訪室時はノックをし納得を得てから居室に入る事、入浴は同性介助を基本とするなど、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮した対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の意思を押しつせず、ご利用者が選択できる場面を作るなど意思表示できるように支援している。又意思表示が難しい方には表情や態度から思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを大切にし、一人一人の個性を生かした支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みや生活習慣に合わせた身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来る事を大切にし、その人に合った事をして頂く。	調理担当係がその日の食材を見て利用者の希望も聞き、メニューを決めています。買い物は利用者で行き、食材と一緒に選んでいます。洗い物や米とぎ、味見等できることに携わってもらっています。梅干し作りや自家菜園で利用者の作った野菜を食卓に載せ、職員も同じ物を食べ会話を楽しんでもらっています。また、外出に出かける事も楽しみの一つとなるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取や食事量を把握し、法人内の管理栄養士に定期的にアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の状況に合わせて必要な方に関しては、口腔ケアや義歯洗浄剤を使用している。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「一日の流れ」などに状況を記入しそれぞれのパターンを把握し、行動にも注意して誘導している。	個々の習慣や排泄パターンを把握し、仕草やサインを見逃さず早めの声かけや誘導でトイレでの排泄自立支援を心がけています。夜間や車椅子の方も紙おむつにせず紙パンツやパッド等に対応しています。必要以上の支援をしないよう心がけ、ドアの外で見守ったり、訪室をして排泄の状況を把握しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活状況を把握し、水分摂取や食事などで予防に取り組んでいる。下剤服用の方には、主治医と相談し、調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者の希望に添えるように準備をしているが、その日の体調や拒否がある方には、声かけや少し時間を置くなど工夫している。	日中の時間帯で、希望に沿って毎日や隔日に入浴を支援し、希望があれば職員の体制がある夜間も対応可能です。入浴剤やゆずを使って楽しんでもらっています。拒否される時は、職員を代えて声かけをしたり、家族に協力してもらいながら、無理強いせずタイミングを見て入りたい気持ちになれるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムやその日の体調によって、居室、ソファーや和室などで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用、用法など、全員が、把握できるよう、ファイル保管し、通院日誌を作成し飲み忘れがないように声かけし見守り、記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などは、利用者の得意な分野でして頂き、ドライブや嗜好の買い物等の支援をしている。誕生日には、希望されるメニューを提供し、ケーキを囲んで、皆でお祝いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食事や身の回りの買い物、散歩やドライブに出かけています。また、お花見や祭り見学、紅葉狩りに行きます。	ドライブで公園に出かけたり、初詣や花見、紅葉狩りなど四季を感じられる外出支援をしています。誕生月にその方の希望する所に出かける支援を始めています。家族と一緒にクラシックコンサートへ行ったり、遠方の親戚の方や家族と一緒に墓参りに行く方もいます。ホームの前に椅子を置き花火大会をしたり利用者が戸外で過ごせるように努めています。	



グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながらご本人での管理が困難な方は職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じご家族、ご友人に電話をかけられる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ室内の温度や湿度を調整し、夏場はよしずを立て日差しをさえぎる工夫をしている。また、飾りつけも季節に応じ変えている。	建物の中心に位置する中庭からの日差しが射し込むリビングは心地よく、一人や数人で過ごせるソファの配置の工夫をしています。中庭のウッドデッキは洗濯物や季節の花、野菜を植え外気に触れながら生活感や季節感が感じられます。夏にはゴーヤカーテンを作り、温度や湿度管理に気を配り、皆で憩える空間となるように支援されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の関係に配慮しながらくつろげるようにソファを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みのあるものを持ち込んで頂けるように話しをし、安心して過ごして頂けるように努めている。	入居前に使っていたタンスやテレビ、仏壇、毛布が持ち込まれ、利用者が落ち着ける居室作りをしています。手芸道具やぬいぐるみ、自身が作成した額縁や化粧品等を置き、心地よく暮らせる支援がなされています。また、ベッドから布団への変更も可能であり、利用者が暮らしやすいよう対応しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に手すりを設置し安全に自立した生活が送れるようにしている。		